

県立大学設立委員会 教育課程・教員選考専門部会（第5回）の概要について

日時 平成 27 年 9 月 10 日（木）10:15～12:30

場所 長野市生涯学習センター 第2学習室

1 出席委員

金田一真澄学長予定者（部会長）、太田光洋委員、中澤弥子委員（欠席）山内弘隆委員

2 議事内容

（1）学部・学科（コース立て）、入学定員（案）について（資料1）

- ・学部・学科（コース立て）、入学定員（案）について説明を行った。
- ・説明のあった案については賛成。健康社会マネジメントについては、全学で履修できた方がよく、学生が学ぶことで行動変容を起こすようだといい。生涯学習とも連携できればと思う。
- ・健康社会マネジメントプログラムは両学部の学生が履修できるもので、総合マネジメント学科の公共経営コースとも関わりが深い内容かと思う。開設科目はある程度増やさざるを得なく、このプログラムも履修すると 130 単位を超えることもあるかと思う。
- ・学科名は食健康学科の方が分かりやすく、定員も 30 人でよいと思う。
- ・健康社会マネジメントプログラムを動かすためには、教職員体制の整備を行ったり、コーディネーター役を置くこと等が必要かと思う。
- ・このプログラムを担当するコーディネーター役、履修する学生の相談窓口、プログラムを目立たせる仕組みを考えることが必要。
- ・このプログラムをカリキュラムのどこに入れるかは、いろいろな考え方があると思う。履修認定に係る科目数や単位数、必修か選択か、教員体制についても検討が必要。
- ・健康社会マネジメントプログラムと海外プログラムでは、プログラムの意味合いが違うので、プログラム名称については再度検討した方がいい。
- ・こども学科のカリキュラムに加え、副専攻的に健康社会マネジメントプログラムを加えることは可能。プログラムのコーディネーターは居た方がいい。

→方向性について了承。9月14日の県立大学設立委員会に部会長から報告。健康社会マネジメントプログラムの詳細については、さらに専門部会で検討する。

（2）アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）（案）について（資料2）

- ・大学全体及び学科ごとのアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）（案）について説明を行った。
- ・高校生への宣伝効果があるように、分かりやすい表現に努めた。
- ・健康社会マネジメントプログラムについては、別途、高校生に宣伝した方がいい。

→了承。9月14日の県立大学設立委員会に部会長から報告。

(3) カリキュラム (案) について (資料3)

- ・各学科のカリキュラム (案) [4学期制] について説明を行った。
- ・4学期制のため、1学期当たり6～7科目に抑えないと時間割に収まり切らなくなる。現在のカリキュラム (案) では1年次の科目数が多く、教職科目があるとさらに時間割が厳しくなるので、2年次以降に少し動かしたい。
- ・4学期制のため、カリキュラム配置が難しい。一部の科目は土曜日を活用したり、長期休業中の集中講義とすることも考えた方がいい。
- ・場合によっては、土曜日にも授業を入れざるを得ないかもしれない。
- ・専任教員の科目は平日、非常勤講師の科目は土曜日にするなど、検討した方がいい。
- ・海外プログラムのある学期にも授業を入れてもいいと思う。
- ・こども学科では、学外実習が4年間で延べ10週間あるので、その期間は学内講義ができない。海外プログラムのある学期にもできるだけ授業科目を入れたい。そうすることにより、何とか4年間に収まり、平日のみで時間割が組めると思う。
- ・1コマの授業を90分から100分に伸ばすことについては、特に問題ない。
- ・集中講義もやむを得ないが、短期間では学生の身につかないので、できるだけ避けたい。
- ・海外プログラムの実施時期について、2年の2学期では、派遣先の国が夏季休業中の場合があり、2年の3学期も考えた方がよい。

→カリキュラム (案) については、次回の専門部会に向けてさらに精査する。

(4) 海外プログラムについて (資料4)

- ・学部ごとの海外プログラム (案) 等について説明を行った。
- ・全員必修とし、専門教育科目としてやっていきたい。
- ・海外プログラムの構築経験のある方にアドバイザーになってもらう必要がある。海外プログラムだけを検討する場もほしい。
- ・当面、海外プログラムの出発点をどこまでにするかを決め、今後、どう完璧なかたちにしていくか、委員の先生方とも別途議論したい。海外プログラムの実施方法は、学科によっても事情は異なると思う。
- ・大学設置審での審査に際し、授業科目として海外プログラムを申請するのであれば、カリキュラム体系の中での位置付け、単位数、シラバス (授業計画) を聞かれると思う。
- ・英語圏でない国の場合でも、英語を使えるプログラムとしたい。
- ・語学研修のみだと特色が出ず、弱いので、差別化のためにも、ぜひ専門教育科目の中でお願いしたい。全員必修なので、できるだけ経費も40万円以下に抑えたい。
- ・海外プログラムの実施時期は、2年次の第2学期か第3学期がよいか議論したい。

→海外プログラムの内容については、引き続き専門部会で検討を行う。 (了)